

アーボ箱形パイプの施工要領書

番号	項目	要領																																																					
1	吊り方	① 四点ワイヤー吊りをお願いします。																																																					
		② 使用吊具 ・ アイボルト(16mm) ・ 外れ止めフック付きワイヤー(16mm×2.5m程度-4本)																																																					
		③ アイボルトの取付け高さは、製造機種の違いから、下記のようにイ、ロの二通りがあります。それぞれの吊り方を参考にして下さい。 ・ イの場合・・・歩道側のアイボルトにのみ長いシャックルを付け車道側はアイボルトに直接フックを掛けて吊る。 ・ ロの場合・・・歩道側、車道側とも、アイボルトに直接フックを掛けて吊る。																																																					
		④ 箱形底部の泥をほうき等で、払い落とす。																																																					
		⑤ 布設後、吊インサート穴は、錆び防止のため、ビニールキャップでふたをして下さい。																																																					
2	シール剤	① シール剤を、ソケット側のごう部に幅10mm程塗りつけて下さい。																																																					
		② カーブ部等で、目地が開く場合はシール剤を多めに付けて下さい。																																																					
		③ 目地の開きは、通常1～2mm程度で、最大7～8mmを限度とします。それ以上の開きが見込まれる場合は、カーブ材のご使用をご検討下さい。																																																					
		(シール剤1本当り塗り付け目安)																																																					
		<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">呼び径</th> <th colspan="4">箱形使用本数(本)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">直線部</th> <th colspan="2">カーブ部</th> </tr> <tr> <th>330ml</th> <th>700ml</th> <th>330ml</th> <th>700ml</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ 150</td> <td>8本</td> <td>16本</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>φ 200</td> <td>6本</td> <td>12本</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>φ 250</td> <td>6本</td> <td>12本</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>φ 300</td> <td>3本</td> <td>6本</td> <td>2.5本</td> <td>4.5本</td> </tr> <tr> <td>φ 400</td> <td>2.5本</td> <td>4.5本</td> <td>2本</td> <td>3.5本</td> </tr> <tr> <td>φ 450</td> <td>2本</td> <td>4本</td> <td>1.5本</td> <td>3本</td> </tr> <tr> <td>φ 500</td> <td>1.5本</td> <td>3本</td> <td>1本</td> <td>2本</td> </tr> <tr> <td>φ 600</td> <td>1本</td> <td>2本</td> <td>0.7本</td> <td>1.5本</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	箱形使用本数(本)				直線部		カーブ部		330ml	700ml	330ml	700ml	φ 150	8本	16本	—	—	φ 200	6本	12本	—	—	φ 250	6本	12本	—	—	φ 300	3本	6本	2.5本	4.5本	φ 400	2.5本	4.5本	2本	3.5本	φ 450	2本	4本	1.5本	3本	φ 500	1.5本	3本	1本	2本	φ 600	1本	2本	0.7本	1.5本
呼び径	箱形使用本数(本)																																																						
	直線部			カーブ部																																																			
	330ml	700ml	330ml	700ml																																																			
φ 150	8本	16本	—	—																																																			
φ 200	6本	12本	—	—																																																			
φ 250	6本	12本	—	—																																																			
φ 300	3本	6本	2.5本	4.5本																																																			
φ 400	2.5本	4.5本	2本	3.5本																																																			
φ 450	2本	4本	1.5本	3本																																																			
φ 500	1.5本	3本	1本	2本																																																			
φ 600	1本	2本	0.7本	1.5本																																																			
3	布設	① 丁張りは、車道側の天端に合わせてかけて下さい。又、ヌキ板等で作った水平定規を使用すると便利です。																																																					
		② 基礎コンクリートの上に敷きモルタルを敷き、箱形を布設します。																																																					
		③ 接合時に、敷きモルタルがかまないようにご注意ください。																																																					
		④ 高さの微調整を樹脂製キャンバで行った後、箱形底部にすき間ができないようモルタルをつめ込んで下さい。																																																					
		⑤ 砕石基礎の場合は鉄板か、コンクリート基礎板をご使用下さい。																																																					
		⑥ 目地の開きは通常1～2mm程度で、その場合にはモルタル目地は不要です。カーブ部等で目地が大きく開く場合にはモルタル目地を施してください。																																																					
		⑦ 箱形は、右車線用・左車線用の区別がありませんので、反対車線ではオス・メスが逆になります。又、勾配が小さい場合は、上流側・下流側どちらからでも施工できます。																																																					
4	埋め戻し 舗装	① 箱形の側面は、沈下防止のためよく締め固めてください。																																																					
		② 表層の舗装時には、ローラーが箱形の縁辺に乗らないように少し高めに施して下さい。																																																					

シール材の塗布方法



ノズルの先端を10ミリのマーキング位置でカットする



ソケットのコーナー部分に 約10φのボリュームで塗り付ける



注) 1度接合したものを、やり直す場合は
必ず、シール材も塗り直してください